

## 大学図書館コレクションと大学スポーツ成績

永見 聡一郎

本研究は図書館の新たなサービスの創造として競技スポーツへの情報支援の可能性を示唆することを目的とし大学図書館のスポーツに関する図書の(1)所蔵数・所蔵率、(2)貸出率及び(3)学生競技者の競技に関する情報収集に対する意識、と大学スポーツ成績との関係を調査した。現在、日本における競技スポーツへの情報支援は殆ど行われておらず、スポーツに関する資料を収集した専門図書館もごく少数しか存在していない。しかし、競技スポーツはオリンピック等にみられるように国民の士気の向上に影響を与え、企業スポーツで用いられているように宣伝効果もある。競技スポーツの支援には非常に意義のあることである。

本研究の調査対象校は大学図書館とし、具体的には、『早稲田スポーツ』の毎年1月号に掲載され、全国の大学スポーツ成績を総合的に順位付けした殆ど唯一の資料である「全国大学スポーツランキング(以下、スポーツランキング)」のランクイン校とした。実際の(1)所蔵数・所蔵率及び(2)貸出率の調査には各大学のOPACやNDL-OPAC及びWebcat Plusを使用し、スポーツランキングを用いて団体の大学スポーツ成績との比較を行なった。(3)情報収集に対する意識は質問紙調査を行い、個人の大学スポーツ成績との比較を行った。

結果として、(1)、(2)では統計的な有意差が確認され、スポーツに関する図書の高い(1)、(2)を記録した大学は、大学スポーツ成績も良い傾向が見られた。加えて(1)、(2)とその他6つの尺度(大学予算、学生数、偏差値、敷地面積、体育系学部の有無、創立年)を説明変数に、大学スポーツ成績を目的変数に設定した重回帰分析を行なったところ、(1)、(2)が大学スポーツ成績の向上に最も与えている影響を与えていることが判明した。これらのことから、大学図書館のスポーツに関する図書は、大学スポーツ成績に最も影響を与えている可能性がある。また、(3)情報収集に対する意識調査も個人の競技スポーツ成績との関連は見られなかったものの、学生競技者においては競技に関する情報収集の際に雑誌が重要視されていること、図書館に対しては、主にトレーニングに関する情報ニーズがあること、競技力が低い学生競技者においては怪我の情報に関するニーズが高いことなどが分かった。

今後は、学生競技者に限らず、企業スポーツの選手や大衆スポーツ従事者等も対象としたより幅の広い調査を行い、スポーツ情報のニーズのより正確な把握を試みたい。

(指導教員 辻慶太)